

金沢学院大学大学院

2026 (令和 8) 年度 入学者選抜試験問題 (I 期)

2025 年 9 月 6 日 (土) 実施

人文学研究科心理学専攻
修士課程

小論文

注意事項

1. 問題冊子は、試験開始の合図があるまで開いてはいけません。
2. 解答は、解答用紙（提出用）に書きなさい。
3. 問題冊子・解答用紙（提出用）・下書き用紙に受験番号・氏名を記入しなさい。
4. 試験終了後、問題冊子・解答用紙（提出用）・下書き用紙を回収します。

受験番号	
氏名	

次の問1～問3について、すべてに解答しなさい。

問1

児童虐待について、後の問①～③に答えなさい。

- ①児童虐待について、虐待の種類や内容を含めて200字程度で説明しなさい。
- ②児童虐待について定義した法律の名前を書きなさい。略称でも可。
- ③スクールカウンセラーとして、児童虐待を受けたと思われる児童を発見した場合の対応について述べなさい。

問2

技能学習におけるレミニッセンスについて「反応制止」という語を用いて説明しなさい。
なお、ここでの技能とは、身体運動や器具の操作を伴う技能に限定するものとする（200字程度）。

問3

人間の選択的注意機能に対するガム咀嚼の影響を検討するため、要因 A として学校段階（2 水準：大学生、小学生）、要因 B として課題作業中のガム咀嚼（3 水準：ガム咀嚼なし、無味ガム咀嚼、味付ガム咀嚼）という 2 つの要因を取り上げ、認知的葛藤課題を行わせる実験を計画した。また要因 A、B の異なる水準の各組み合わせについて、10 回ずつ反復して試行（測定）を行うものとした。この実験計画について、後の問①～⑤に答えなさい。

- ①この計画に沿って実験を行うとき、全部で何回の試行（測定）が必要となるかを答えなさい。
- ②この計画において要因Aが参加者間要因となる理由を述べなさい。
- ③この計画において要因 A を参加者間要因、要因 B を参加者間要因とする場合、必要となる実験協力者の人数を答えなさい。
- ④この計画において要因 A を参加者間要因、要因 B を参加者内要因とする場合、必要となる実験協力者の人数を答えなさい。
- ⑤この計画に対する修正案として、要因 B の水準「味付ガム咀嚼」の試行を行う際、異なる種類の味がするガムを用意しておき、好きな味を選んでもらうようにすると良いのではないかという指摘を受けた。この指摘は、実験結果にどのような影響が混入することを想定したものかを論じなさい。

年度	2026年度
研究科	人文学研究科
課程	修士課程
専攻・コース等	心理学専攻
試験科目	小論文
実施日（試験日）	2025年9月6日
解答又は解答例及び出題意図	
<p>○出題意図</p> <p>人文学研究科心理学専攻修士課程のアドミッションポリシーのうち、「1.心理学及びその関連領域に関する専門的知識と真摯な探究心」に関して、入学者が資質を有していることを確認することを目的としている。加えて、公認心理師養成において必要な、臨床心理学に限らず、幅広い分野について理解していることが求められるため、心理学における用語や理論、心理統計に関して説明、論述する形式としている。</p> <p>○解答または解答例</p> <p>問1-① 児童虐待とは親あるいは代理の保護者の行為によって、児童の心身が危機にさらされることで、身体的虐待・心理的虐待・ネグレクト・性的虐待の4つに分類される。児童虐待の原因は、世代間伝達や、社会環境の変化による育児の困難さ、児童自身の育てにくさの問題など多様であり、一義的に特定することはできない。そのため、原因を探ることより、児童虐待の早期発見と早期介入が重視されている。</p> <p>問1-②児童虐待防止法（児童虐待の防止等に関する法律）</p> <p>問1-③児童虐待を受けたと思われる児童を発見した場合には、上司である校長に報告したうえで、児童虐待防止法に従い、児童相談所もしくは福祉事務所に通告を行う。この通告は守秘義務より優先される。</p> <p>問2 技能の習得において、休憩をはさまずに練習を繰り返す集中練習を用いると、練習を開始した後、反復回数の少ない早期のうちから習得度が急激に向上する。しかし、一定程度の練習の後に習得が進まなくなる。このとき、練習を停止して休憩を取ると、休憩後に再び習得度が向上する。この現象をレミニッセンスと言う。ハルの理論では、レミニッセンスは、練習の反復で蓄積した疲労など反応を妨害する「反応制止」が、休憩中に解消されることによって生じるとされている。</p> <p>問3-① $2 \times 3 \times 10 = 60$ より、60回</p> <p>問3-② 学校段階は実験協力者に対して自由に割り付けることがほぼ不可能であるから。</p> <p>問3-③ $2 \times 3 \times 10 = 60$ より、60名</p> <p>問3-④ $2 \times 1 \times 10 = 20$ より、20名</p> <p>問3-⑤ ⑤要因Bの水準「味付ガム咀嚼」の試行を行う際に1種類の味のガムしか用意していないと、その味に対する個人の好き嫌いによって、水準が認知的葛藤課題の成績に及ぼす効果が変わるという影響が混入してしまう可能性が高い。指摘は、このような交絡を避けるため、ガムの味に対する好みからの影響を一定化することを念頭に置いたものである。（回答例）</p> <p>（試料として用いるガムの味に対する個人の好みは、水準「味付ガム咀嚼」の試行に対して交絡する剰余変数となることを指摘できれば良いものとする）</p>	